

考えている。TMR給与では、飼料の摂取量が増え、夏場の摂取量低下を防ぐ効果を期待している。

また、稲SGSのTMRは、調製後時間がたっても嗜好性が落ちないという効果も現れている。今後、栄養価値の測定が必要とされる。

肉用繁殖牛、肥育和牛、搾乳牛で試験給与しているが、嗜好性がよく良好に飼育されている。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 組合員への反響が大きく、認識が広まりました。飼料用米を給与するという取組の意義（国産飼料であることや、水田の維持ができること等）から、食味（おいしいとの評価）に至る、全体の流れについても、非常に高い関心を得ています。
- 畜産農家においても飼料高騰といった厳しい情勢に直面しておりましたが、

これを転機と考え、前向きにこれに立ち向かう意欲が生まれた。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 全国的に事例のない取組であったことから、走りながらの検証となったが、関係機関のサポートで成功することが出来た。

出来上がった製品は、水田の保全機能と日本の新しい畜産生産基盤の変革を秘めた飼料となった。今後も地域内での自給濃厚飼料の生産、耕畜連携の取り組みで、畜産物のブランド化など地場産業への波及に期待したい。

真室川町内の畜産農家7名、耕種農家7名
J A 真室川町営農販売課
真室川町産業課
山形県農業総合研究センター畜産試験場
// 最上総合支庁農業技術普及課

参考データ・写真等

